

⑥ 朝鮮近海出漁と船着場跡

～船団を組んで朝鮮近海までも出漁！～

佐賀県で本格的に朝鮮近海に出漁するようになったのは明治38年、佐賀県朝鮮近海通漁組合が結成されて以来である。昭和初年までは、いわば無動力時代であり佐賀郡の発展期であった。大正末期から昭和初年にかけての期間は、西与賀村、西川副村など佐賀郡の朝鮮近海出漁の黄金時代であった。出漁は毎年3月から7月まで西与賀港から約18隻、西川副漁港から12隻、合計30隻が有明沖合で合流し船団を組み、遠く中国の大連沖から東シナ海にかけて出漁し、昭和10年には出漁船はすべて動力化された。水揚げは、100万円(現在では10億円)の漁獲をあげていた。魚種は、さわら、ひらぎめ、ぐち等が主で、この販売は一部は朝鮮で陸揚げし、大部分は林兼商店に沖売りしていた。